

Overview: 神と私たちとの間の第一の問題は、私たちが自分のために生き、神のために生きていないということです。しかし、主を賛美します！キリストは地上で神のために絶対的である生活を生きられました。このキリストが全焼のささげ物です。私たちはキリストを全焼のささげ物として享受すればするほど、自分がいかに罪深いかをますます認識します。そして私たちは以前よりも深く、彼を私たちの罪のためのささげ物とすることができます。そしてこれは私たちに、彼をさらに全焼のささげ物として享受させます。私たちは自分自身では絶対的に神のために生きることができませんが、キリストと結合し一になり、キリストを生きることで神のために生きることができます。私たちがキリストを私たちの全焼のささげ物とすればするほど、彼の美しさの外側の表現はますます私たちのものとなって、彼を大きく表現し、またますます私たちはキリストを、私たちを覆い、保護し、守る、私たちの包む力として享受します。全焼のささげ物は、私たちがこの時代に神のために絶対的である心を持つことを示します。全焼のささげ物の結果である灰は、私たちの天然の人が減少して無になることを表徴します。私たちは減少して灰になりつつあり、最終的に灰は新エルサレムとなって神を表現します。

I. 完全に神の満足のためであり、神のための食物であった全焼のささげ物(レビ1:1-17、6:8-13)が表徴するのは、神の喜びと満足としてのキリスト、その生活が地上で神のために絶対的であった方としてのキリストです: A. キリストは全焼のささげ物として、ほふり場に引かれて行きました。B. キリストは全焼のささげ物として、ほふられました。

C. キリストは全焼のささげ物として、皮をはがれ、彼の人性の美德の外なる現れをはがされました。D. キリストは全焼のささげ物として、各部位ごとに切り分けられました。』

E. 知恵であることにおけるキリストの経験は、全焼のささげ物の頭によって表徴されます。F. 神の喜びであることにおけるキリストの経験は、全焼のささげ物の脂肪によって表徴されます。G. キリストの存在の内側の各部分におけるキリストの経験は、全焼のささげ物の内臓によって表徴されます。

H. 歩みにおけるキリストの経験は、全焼のささげ物の脚によって表徴されます。I. 聖霊によって汚れから守られることにおけるキリストの経験は、全焼のささげ物の脚と内臓が洗われることによって表徴されます。』

II. 私たちはキリストを全焼のささげ物として享受すればするほど、自分がいかに罪深いかをますます認識します。そして私たちは以前よりも深く、彼を私たちの罪のためのささげ物とすることができます。そしてこれは私たちに、彼をさらに全焼のささげ物として享受させます。

V. 私たちがキリストを私たちの全焼のささげ物とすればするほど、彼の美しさの外側の表現はますます私たちのものとなって、彼を大きく表現し、またますます私たちはキリストを、私たちを覆い、保護し、守る、私たちの包む力として享受します。』

VI. 私たちは全焼のささげ物としてのキリストをもって御父を礼拝し、神を満足させる必要があります:

A. 神は、私たちがささげ物の実際としてのキリストをもって、彼を礼拝することを願っています。ささげ物は、神を喜ばせ、彼を幸いにするためです。B. 神は飢えており、食物を必要とします。ささげ物は神の食物です: 1. ささげ物の主要な目的の一つは、それらが神のための食物であるということです。2. 全焼のささげ物は神の食物であり、神がそれを享受し、満足するためです。神だけがそれを食べることができます。

C. 全焼のささげ物は神の満足のためであり、神の願いを成就します:

1. 全焼のささげ物は、キリストが神の満足のために絶対的であることを示します。

2. 正しい礼拝は、全焼のささげ物としてのキリストをもって神を満足させるという事柄です。

3. 「全焼のささげ物」と訳されたヘブル語は、昇っていくものを示します。この昇っていくことはキリストを指しています: a. 地から神に昇っていくことができる唯一のものは、キリストが生きた生活です。なぜなら彼は、神のために絶対的である生活をした唯一の方であるからです。b. キリストは全焼のささげ物として、神を完全に満足させることができる生活をするので絶対的です: (1) 私たちの全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、私たちは彼に結合されます。(2) キリストは私たちの中で生きる時、彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、私たちの中で繰り返します。

4. 「満足させるかおり」と訳されたヘブル語は、文字どおりには、「安息あるいは満足の香り」、すなわち、神に満足を与える香りを意味します: a. 満足させるかおりは、満足、平安、安息をもたらす香りです。そのような満足させるかおりは、神にとって享受です。b. 私たちが全焼のささげ物の実際としてのキリストをもって御父を礼拝するとき、神を喜ばせるかおりは彼に昇り、彼を満足させます。c. 神は満足するので、私たちを甘さをもって受け入れます。これが全焼のささげ物の意義です。』

III. 全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、私たちは彼に結合され、彼と私たちは一になります: A. そのような結合、そのような一体化の中で、私たちのすべての弱さ、欠陥、過失は彼によって負われ、彼のすべての美德は私たちのものとなります。B. そのような結合によって、キリストは私たちと一になり、私たちの中で生き、彼が地上で生きた生活、すなわち全焼のささげ物の生活を、私たちの中で繰り返します。

IV. 私たちは日ごとにキリストを私たちの全焼のささげ物とする必要があります。それによって私たちは、全焼のささげ物としてのキリストの経験におけるキリストを経験することができます。それは外側でキリストを模倣することではなく、私たちの日常生活の中で彼を生きることで:

A. 私たちは、キリストがほふり場に引かれて行くことにおけるキリストを経験する必要があります。

B. 私たちは、キリストがほふられることにおけるキリストを経験する必要があります。』

C. 私たちは、キリストが皮をはがれることにおけるキリストを経験する必要があります。

D. 私たちは、キリストが各部位ごとに切り分けられることにおけるキリストを経験する必要があります。

E. 私たちは、キリストの知恵におけるキリストを経験する必要があります。

F. 私たちは、キリストが神にとって喜びであることにおけるキリストを経験する必要があります。

G. 私たちは、キリストの存在の内側の各部分におけるキリストを経験する必要があります。

H. 私たちは、キリストの歩みにおけるキリストを経験する必要があります。

I. 私たちは、キリストが聖霊によって汚れから守られることにおけるキリストを経験する必要があります。

VII. 私たちは減少して灰になりつつあり、新エルサレムとなって神を表現します:

A. 全焼のささげ物は、私たちがこの時代に神のために絶対的である心を持つことを示します。

B. 灰は、キリストが減少して無になることを表徴します: 1. 主の願いは、キリストにあるすべての信者が減少して灰になることです。2. 私たちは、減少して灰になったキリストと一であるので、私たちも減少して灰になります。すなわち、減少して無になり、ゼロになります。3. 私たちは死におけるキリストと一体化されればされるほど、自分が灰の堆積になっていることをますます認識します。

4. 私たちは灰になるとき、もはや天然の人ではありません。そうではなく、私たちは、十字架につけられ、終わらせられ、焼かれている人です。

C. 灰は、神が全焼のささげ物を受け入れたことのしるしです: 1. 神が全焼のささげ物を受け入れることは、彼がそれを灰にすることです。2. 神が全焼のささげ物を受け入れることはまた、彼がそれを脂肪として受け入れることを意味します。脂肪は彼にとって甘く、喜ばせるものです。

D. 灰を祭壇の東側、日の出の側に置くことは、復活の暗示です:

1. 全焼のささげ物としてのキリストから言えば、灰は終わりではなく、開始です。

2. 灰は、キリストが死に渡されていることを意味しますが、東は復活を表徴します。

3. 私たちがキリストの中で減少して灰になればなるほど、ますます東に置かれます。そして私たちは東で、太陽が昇ることを確信し、また私たちが復活の日の出を経験することを確信します。

E. 最終的に、灰は新エルサレムとなります:

1. キリストの死は私たちを終わりにもたらします。すなわち、それは私たちを減少させて灰にします。

2. キリストの死は復活をもたらす、復活の中で、灰は神の建造のための尊い材料となります。

3. 私たちは減少して灰になるとき、三一の神の造り変えへともたらされます。

4. 新エルサレムを建造するための尊い材料は、灰の造り変えから来ます。

F. 私たちが全焼のささげ物であることの結果は、神のエコノミーを完成するものとなることです。』

第一日：レビ1:1 さて、エホバは集会の天幕の中からモーセを呼んで、彼に語って言われた、
2 「イスラエルの子たちに語って彼らに言いなさい、『あなたがたのうちだれかがエホバにささげ物を献げるとき、あなたがたは家畜の中から、牛の群れ、羊の群れから、そのささげ物を献げなければならない。3 その人のささげ物が、牛の群れからの全焼のささげ物であるなら、彼は傷のない雄を献げなければならない。それを集会の天幕の入り口で献げて、彼がエホバの御前に受け入れられるようにしなければならぬ。4 彼はその全焼のささげ物の頭の上に手を置かなければならない。そうすれば、それは彼に代わって受け入れられて、彼のために罪を覆う。

5 彼はその若い雄牛を、エホバの御前でほふらなければならない。そして祭司であるアロンの子たちは、その血を献げて、集会の天幕の入り口にある祭壇の上と四つの側面に、その血を振りかけなければならない。6 それから、彼は全焼のささげ物の皮をはぎ、それを各部位ごとに切り分けなければならない。

7 祭司であるアロンの子たちは、祭壇の上に火を置き、火の上に薪を整然と並べなければならない。8 そして、祭司であるアロンの子たちは、そのそれぞれの部位と頭と脂肪を、祭壇の上にある火の上の薪の上に整然と並べなければならない。9 ただし、その内臓とその脚は水で洗わなければならない。そして祭司は、そのすべてを祭壇の上で、全焼のささげ物として焼いて煙を立ち上らせなければならない。それは火によるささげ物であり、エホバを満足させるかおりである。
イザヤ53:7 …ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る者の前で黙っている羊のように、彼は口を開かなかった。

第二日：ルカ2:52 こうしてイエスは、知恵と身の丈においても、また神と人の前で彼にあつて現された恵みにおいても、増し加わっていった。

マタイ3:17 …見よ、天からの声が言った、「これは私の子、愛する者、私は彼を喜ぶ」。

4:1 その後、イエスは悪魔に試みられるために、その霊によって荒野へと導かれた。

ヨハネ6:38 なぜなら、私が天から下って来たのは、自分の意志を行なうためではなく、私を遣わされた方のみこころを行なうためだからである。

第三日：レビ1:4 彼はその全焼のささげ物の頭の上に手を置かなければならない。そうすれば、それは彼に代わって受け入れられて、彼のために罪を覆う。

Ⅱコリント4:11 なぜなら、私たち生きている者はイエスのために、絶えず死に渡されているからであり、それはイエスの命が、私たちの死ぬべき肉体に現されるためです。

ピリピ3:10 キリストと彼の復活の力と彼の苦難の交わりとを知り、彼の死に同形化されて、

第四日：Iコリント4:12…ののしられては祝福し、迫害されては耐え忍び、13 中傷されては優しい言葉を返しています。私たちは今に至るまで、この世の屑、すべての物のかすのようになっています。

ガラ1:10 今私は、人の賛同を得ようとしているのでしょうか、それとも神の賛同を得ようとしているのでしょうか？ あるいは、私は人を喜ばせようとしているのでしょうか？ もし私が、なおも人を喜ばせようとしているなら、私はキリストの奴隷ではありません。

ピリピ2:5 キリスト・イエスの中にあつたこの思いを、あなたがたの内側でも思いとしまさい。

1:8 私が、あなたがた一同をキリスト・イエスの心の深みの中で、どんなに恋慕しているか、神が私の証人です。

第五日：Iペテロ2:5 あなたがた自身も生ける石として、霊の家に建造されていきながら、聖なる祭司の体系となって、イエス・キリストを通して、神に受け入れられる霊のいけにえをささげなさい。

ヘブル13:15 ですから、彼を通して、絶えず賛美のいけにえ、すなわち、御名を言い表す唇の実を、神にささげようではありませんか。

第六日：レビ6:10 祭司は、亜麻の衣を着て、亜麻のももひきを身に着け、祭壇の上の火で焼き尽くされた全焼のささげ物の脂肪の灰を取り上げて、それを祭壇のそばに置かなければならない。11 それから、彼は衣を脱ぎ、別の衣を着て、その灰を営所の外の清い場所に運び出さなければならない。

経験①: 全焼のささげ物としてのキリストを経験する

全焼のささげ物としてのキリストの上に手を置くことによって、私たちは彼に結合されます。私たちと彼、彼と私たちは一になります。そのような結合、そのような一体化が示すのは、私たちのすべての弱さ、欠陥、欠点、過失が彼のものとなり、彼のすべての美德が私たちのものとなるということです。これは交換ではありません。それは結合です。

私たちは、自分が完全に失格であり、望みがないと認識しているかもしれません。これが私たちの実状です。しかし、私たちがキリストの上に手を置くとき、私たちの弱点は彼のものとなり、彼の強い点、彼の美德は私たちのものとなります。さらに、霊的に言って、そのような結合によって、彼は私たちと一になり、私たちの中で生きられます。彼は私たちの中で生きるとき、彼が地上で生きた生活、全焼のささげ物の生活を私たちの中で繰り返します。私たちは自分自身の中でこのような生活を生きることができませんが、彼は私たちの中で生きることができます。私たちは彼の上に手を置くことによって、彼を私たちと一にし、私たち自身を彼と一にします。そのとき、彼は私たちの中で彼の生活を繰り返します。これが全焼のささげ物をささげることです。

キリストを私たちの罪のためのささげ物また違犯のためのささげ物とするために、キリストが経験したことを私たちが経験する必要はありません。しかしながら、キリストを私たちの全焼のささげ物とするためには、キリストが経験したことを私たちが経験する必要があります。

私たちは、神への全焼のささげ物としての経験におけるキリストを経験するなら、キリストのように、ほふり場に引かれて行くべきであることを認識するでしょう。私たちはこれを結婚生活の事柄に適用してよいでしょう。夫と妻の間の争いで、両者が、あるいは二人のうち一人でさえ、ほふり場に引かれて行く経験におけるキリストを経験しようとするなら、争いは飲み尽くされるでしょう。私たちが召会生活の中で、ほふり場に引かれて行く経験におけるキリストを経験するなら、召会の中の問題に関しても結果は同じでしょう。

在職青年編

キリストは罪を知らなかった方として、私たちに代わって罪とされました。それは、私たちが義とされるためです。これが罪のためのささげ物としてのキリストです。また、キリストは私たちの罪(複数)のために十字架上で死なれました。これが違反のためのささげ物としてのキリストです。主を賛美します。あなたは、ただ祝福にあずかるだけです。これらのことで、キリストが経験したことを経験することはできません。なぜなら、キリストには罪が無いのですが、あなたには罪があるからです。しかし、全焼のささげ物については、キリストが経験したことをあなたも経験する必要があります。

例えば、職場の環境において、馬の合わない上司や、あなたを嫌っている同僚があなたに按配されています。しかし、あなたには、それを変更する権限がありません。実は、このような環境は、主が主権の中で行われたことです。あなたは主の主権に服して、次のように祈ってください、「おお主イエスよ、私はこのような職場環境に非常に困惑しています。しかし、私は会社の中で、このことを変更する権限を持っていません。主イエスよ、私はこのようなアレンジを決定した会社の上司に服することを学びます。また、真の主権者であるあなたの御前に来て、あなたに服従します。私に恵みを与えてください。この環境の中で、不平を言わず、私が学ぶべきことを学ぶことができますように。主に感謝します」。

神はあらゆる環境をアレンジして、あなたを造り変えることができます。あなたは、多くの時、何があなたにとって最善であるのかを知りませんが、神はご存知です。ローマ 8:27 心を探る方は、その霊の思いが何であるかを知っておられます。なぜなら、彼は神にしたがって、聖徒たちのためにとりなしてくださるからです。28 また神を愛する者、すなわち、彼の目的にしたがって召されている者たちには、すべてが共に働いて益となることを、私たちは知っています。

経験②: キリストを知恵として経験するために、キリストを生きなければならない

コリント人への第一の手紙第 1 章 30 節は、キリストが神から私たちに与えられた知恵となられたと言っています。レビ記第 1 章で、キリストの知恵は全焼のささげ物の頭で予表されています。私たちはキリストを私たちの知恵としようとするなら、キリストを生きなければなりません。正常なクリスチャン生活、主の中に住んで主の命を享受する生活は、自分自身によってではなく、主によって事を行なう生活です。

私たちは、キリストが神にとって喜びであることにおけるキリストも経験します。主イエスは常に、神にとって喜びでした。…私たちが今日私たちの全焼のささげ物としてのキリストの生活をするなら、私たちも神にとって喜びとなるでしょう。パウロはこのようにキリストを経験しました。…彼は言います、「今私は、人の賛同を得ようとしているのでしょうか、それとも神の賛同を得ようとしているのでしょうか？ あるいは、私は人を喜ばせようとしているのでしょうか？ もし私が、なおも人を喜ばせようとしているなら、私はキリストの奴隷ではありません」(ガラテヤ 1:10)。パウロは、キリストの生活の繰り返しであり、絶えず神を喜ばせる生活をしました。ですから、彼の生活は神にとって喜びでした。

キリストの内側の各部分は、彼の思い、感情、意志、心、そしてそれらのすべての機能を含む彼の存在のすべての内側の部分を示します。私たちの内側の各部分、私たちの内なる存在の主導的な部分は思いです。…キリストの中にあつたその思いは、今日私たちの中にあるべきです。これは、私たちが彼の思いを私たちの思いとするべきであることを意味します。私たちは自分自身の、天然の思いではなく、キリストの思いを持つ者であるべきです。

中高生編

あなたは学校生活の勉強や複雑な人間関係において、キリストを知恵として経験してください。そのために、あなたは奇跡的にキリストの知恵だけを求めてはいけません。このように求めても、何の効果もありません。キリストの知恵を経験するために、キリストで満たされ、キリストを生きる必要があります。このために、次のことを訓練してください。

1. 早寝早起きする: リー兄弟は、主を享受する最も良い時間は朝の6時から7時である、と言われました。このために、あなたは早寝を実行しなければなりません。できれば、夜11時まで、遅くとも12時までには就寝してください。寝るときに、「主イエスよ、あなたと共に安息の中で寝ることができますように。寝るときも主の恵みが共にあることを求めます。主の恵みがなければ、悪い夢を見たり、寝相が悪かったりして、良い睡眠をとることができません。また、明日の朝、目覚まし鳴る直前に、私を起こしてください。アーメン！」と祈ってください。このようにして、1年間に365日、1週間に7日、毎日、主の御言葉を読み、毎朝復興を実行してください。これらの享受は、あなたの内側で毎日の供給となり、蓄積となります。
2. 日々更新される: 毎朝復興されることで、毎日主と共に学校に行き、キリストを生きる生活を少しずつ訓練してください。
3. 思いを霊に付けて、主によってことを行なうことを学ぶ: あなたは、まず勉強において、キリストを知恵として経験してください。毎朝復興と日々更新の生活を基礎として、勉強の時に思いを霊に付け、主と共に考え、理解し、暗記してください。また、複雑な人間関係において、どのように振る舞ったら良いのか、主から知恵をいただく必要があります。

1 コリント 1:30 しかし、あなたがたがキリスト・イエスの中にあるのは、神によるのです。このキリスト・イエスは、神から私たちに与えられた知恵、すなわち、義と聖別と贖いとなられました。

624 集会 — キリストを展覽する

1. すべてのしゅうかい、主と主のゆたかを、
みかみの一かてとし、展覽しよう、主を。
(復) 展覽しよう、主を、展覽しよう、主を、
主のとみを持ち来て、展覽しよう、主を。
2. 主により生き、また 主によりたたかわん；
主により一むすばれ、展覽しよう、主を。
3. わがあゆみすべて、主を實際となして、
しゅうかい一たびごと、展覽しよう、主を。
4. かみのためつどい、手に主、持ち寄らば、
かみと主一たのしまん、展覽しよう、主を。
5. 復かつ、しょう天の主、薫香としささげろ；
みかみ満一ぞくする、展覽しよう、主を。
6. しゅうかいのちゆう心、ほう仕、ふん困気も、
主を展覽一するため、展覽しよう、主を。
7. あかしもいのりも、おしえ、まじわりも、
たまもの一すべてで、展覽しよう、主を。
8. ちちにえい光帰し、御子をたかく上げ、
ひつ要満一たすため、展覽しよう、主を。

624 聚会—展览基督

- 一
每逢聚集带来基督，将祂所赐有余丰富，
同来献上作神食物，如此展览基督。
(副) 前来展览基督，前来展览基督；
共同带来祂的丰富，前来展览基督。
- 二
凭祂生活，靠祂争战，在祂身上经营无间；
藉祂丰富彼此结联，为要展览基督。
- 三
凡我所是、所行、所历，都是基督作我实际，
好使我们每逢聚集，都能展览基督。
- 四
聚会为神带来基督，彼此享受祂的丰富，
且得与神同享基督，如此展览基督。
- 五
复活基督作神馨香，升天基督向神举上，
使神满足供神欣赏，如此展览基督。
- 六
聚会中心、聚会实际、所有服事、所有空气，
除此之外别无目的，全为展览基督。
- 七
所有见证、所有祷告、所有灵中彼此相交、
恩赐运用、一切教导，都为展览基督。
- 八
为使父神得荣称许，为使基督得到高举，
并使聚会应付所需，必须展览基督。

864. Meetings - Exhibiting Christ

- 1 Whene'er we meet with Christ endued,
The surplus of His plenitude
We offer unto God as food,
And thus exhibit Christ.
(C) Let us exhibit Christ, Let us exhibit Christ;
We'll bring His surplus to the church
And thus exhibit Christ.
- 2 In Christ we live, by Christ we fight,
On Christ we labor day and night,
And with His surplus we unite
To thus exhibit Christ.
- 3 Our life and all we are and do
Is Christ Himself, the substance true,
That every time we meet anew
We may exhibit Christ.
- 4 In meetings Christ to God we bear
And Christ with one another share,
And Christ with God enjoying there,
We thus exhibit Christ.
- 5 The risen Christ to God we bring,
And Christ ascended offering,
God's satisfaction answering,
We thus exhibit Christ.
- 6 The center and reality,
The atmosphere and ministry,
Of all our meetings is that we
May thus exhibit Christ.
- 7 The testimony and the prayer,
And all the fellowship we share,
The exercise of gifts, whate'er,
Should just exhibit Christ.
- 8 The Father we would glorify,
Exalting Christ the Son, thereby
The meeting's purpose satisfy
That we exhibit Christ.